

助産婦学校卒業生の就業状況の実態調査と 生涯学習について（総括）

研究協力班長 宮里 和子¹⁾
研究協力者 前原 澄子 ， 工藤 美子 ， 三枝 清美²⁾
森 恵美³⁾ ， 渡部 尚子 ， 佐山 光子 ， 佐藤 雄二⁴⁾
柴田真理子⁵⁾ ， 幅下 貞美¹⁾ ， 常盤 洋子⁶⁾

要約：社会環境の変化に対応した母子保健活動が求められている。一方、分娩状況の変化や助産婦活動の実態などから助産婦教育、助産婦学校卒業生の就業状況と生涯教育などの見直しが迫られている。そこで先行研究や資料から前述の3領域についての現状と問題点について検討した。

見出し語：助産婦教育、助産婦の就業状況、助産婦の生涯学習

研究目的

本研究班は少子化時代に対応した助産婦活動のあり方について、助産婦教育、助産婦学校卒業生の就業状況と生涯学習の3領域から明らかにすることを目的としている。

研究方法

助産婦教育、卒業生の就業状況および生涯教育に関する先行研究から現状と問題点を討議を通じて行った。また、問題分析のための質問紙作成の検討も行った。

-
- 1) 順天堂医療短期大学 2) 千葉大学看護学部 3) 日本赤十字看護大学
4) 埼玉県立衛生短期大学 5) 東邦大学医療短期大学
6) 同愛記念病院附属高等看護学院助産学科

研究結果と考察

助産婦教育：諸外国の助産婦教育に関する文献を検索した。国により学生の年齢や教育期間・内容等は様々であった。各国の母子保健の現状と実施している助産婦教育システムに関する問題点を把握することが本課題の検討に必要となる。

卒業生の就業状況：平成2年度研究データから特に助産婦に関して分析した。職場定着、専門職としての自己啓発活動、職場環境の満足度等他の看護職に比し評価が低い傾向にある。さらに、私的生活領域をも含む助産婦の就業特性を明らかにするため質問紙を作成し、次年度に調査を行う

予定である。

生涯学習：「助産婦の生涯教育へのニーズ調査」によると、助産婦はいろいろな形態の自己学習に参加している実態がある。しかし、このような努力がキャリアとして評価されず、人事処遇システムに連動されていない。今後は生涯教育の質を高めるための方策が望まれる。

以上、3領域から小児化時代に対応した助産婦のあり方について研究が進行しているが、相互に関連性が深いので内容の重複や間隙をさけるために連絡調整、討議を充分に行っていききたい。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:社会環境の変化に対応した母子保健活動が求められている。一方、分娩状況の変化や助産婦活動の実態などから助産婦教育、助産婦学校卒業生の就業状況と生涯教育などの見直しが迫られている。そこで先行研究や資料から前述の3領域についての現状と問題点について検討した。